

「アトピーの治療経過とヘルペス手記」 千藤 和成 56 歳

2013 年 8 月 18 日

「脱ステロイドの成功とヘルペスとの戦い」

1. はじめに

現在、アトピー性皮膚炎の治療中ですが、中間報告を致します。
下記の順に説明します。

- ① 松本医院の漢方治療に至るまでのアトピー治療歴
(漢方治療中の症状と IgE 抗体値の変化に最も影響する因子)
- ② 松本先生との対面 (根本治療の開始)
- ③ 脱ステロイドの成功
- ④ IgE 抗体値の変化
- ⑤ 治療初期の症状の変化
- ⑥ ヘルペスウイルスとの戦い
- ⑦ 抗ウイルス剤について
- ⑧ 最後に

2. アトピー治療歴

小学生の頃

夏は喉、肘、膝にあせも、冬は乾燥肌で頬、手の甲、肘、膝がカサカサになり痒くなることがありました。

小学生のある期間(半年程度?)小児科医から「アレルギー体質を変える」との説明で、2回/週 肘の静脈注射と臀部の筋肉注射を打っていたこともありましたが、注射の効果がはっきりしなかったため、途中で通院するのを止めました。

中学生～高校生の頃

冬は肘、膝が痒く、発疹があり、悪化した時は、近隣の皮膚科の開業医で内服薬とステロイド外用薬による治療を受けていました。

ステロイド外用剤を塗ると、痒みの低減と皮膚の再生には効果があるが、汗をかいた時や就寝中の痒みは逆に増し、無意識に掻きむしって、返って症状は悪化していき、塗布範囲、塗布量は増えていきました。

大学生の頃

ステロイドによる治療では根本的には治らないと感じていたため、18才の時、体の内側から治す漢方煎じ薬による治療に切り替えました。血液が浄化するまで症状は悪化し、その後好転すると説明を受け、しばらく

く痒みと症状の悪化に耐えながら続けていたが、いつ好転するか見えない不安と、痒みの我慢の限界を超え、数か月で断念しました。

既にステロイド依存症になっており、脱ステロイドは無理でした。

その後、新しい治療薬による改善を期待し、大学の附属病院で治療を受けていたが、基本的には注射とステロイド外用薬、内服薬（抗アレルギー剤または抗ヒスタミン剤）による治療で、治ることはありませんでした。

社会人になってから

症状が悪化した時は皮膚科の開業医によるステロイド外用薬と内服薬（抗アレルギー剤または抗ヒスタミン剤）による治療を受けていましたが、時に医師の勧めで注射することもありました。

34 才の時、激しい痒みと炎症が全身に広がり、手足には無数の水泡ができ、広がり、融合し、崩壊して、リンパ液の漏出が激しい状態になりました。ステロイドの注射と内服薬と外用薬でなんとか抑え込んでもらっていました。顔以外の患部は症状に応じて、strongest:ダイヤコート（ファイザー）、Very strong:リンデロン（塩野義）などを使いました。

35～36 才の時、ステロイドの副作用による白内障や失明の記事を雑誌で知り、初めてステロイドの副作用の怖さを知りました。

今まで医師からは重大な副作用の説明はなかったので、大変ショックを受け、ステロイド以外の治療方法を本屋の書籍で色々探していました。

37 才の時、水道水の整水器によるアルカリイオン水の摂取と酸性水の塗布による『水治療法』を医師が指導していることを知り、ステロイドを止めて開業医に通院しました。

しかし、やがて手足に水泡が多数出来、合体し、皮膚が崩壊し、多量のリンパ液の漏出と激しい痒みで、わずか 1.5 か月間でこの治療は断念しました。

（34 才の時と同じ症状）結局、他の皮膚科医で、元の症状に戻すために、ステロイドの注射（2 週間）、内服薬（1 か月間）、大量の外用薬（strongest クラス）塗布で抑え込むという最悪の処置をする破目になりました。

これに懲りて、止むを得ずステロイド外用薬による治療を継続していました。それでも、やはりステロイド治療の継続はやがて白内障に至る不安が残っていました。

43 才の時に、新たな治療法をインターネットで検索してみたら、松本医院のホームページで、『革命的アトピーの根本治療法』と多くの『患者さんの手記』を何度も読み、これこそ探していたものと感動しました。

今まで、脱ステロイドに何度も失敗してきたが、理論と指導と実績（患者さんのリアルな手記）があれば、つらい状況が続いても、孤独感から来る不安が解消され、いずれ必ずステロイドの離脱～完治まで到達できそうに思えました。しかし、私は 30 年以上ステロイドを使用してきたので、数か月以上休職と最大級のリバウンド症状が予想され、しばらく思案していましたが、

覚悟を決めて最後の挑戦をすることに決めました。前置きが大変長くなりましたが、かくして私の漢方治療が始まりました。

3. 松本先生との対面 (根本治療の開始)

初診の冒頭に松本先生は「何故ここを選んだのか」と質問されました。

私の松本医院を選択した理由はホームページに公開されていた内容に感動し、治療を受けたいと思ったからです。とりわけ下記3点が魅力的でした。

- ① アトピーの根本治療方法
- ② ステロイドを使用しない治療方法
- ③ 多くの患者の手記 (+先生のコメント付記) が公開されていること (治療内容、経過、完治実績が見える)

松本先生はアトピーの根本治療法を熱弁され、「異物との戦いに負けることが治ること」であると説明されました。

私の懸念点は、リバウンドでどれ位の期間休職することになるか気がかりでしたが、先生は「案ずるより産むが易し」、「絶対治るよ」とおっしゃって、握手して下さり、150 ページもある論文「自然後天的免疫寛容によるアトピー完治の理論」を下さいました。この論文とホームページの情報は長期治療期間中のころのよりどころになりました。大学生の頃からステロイドは根本的治療でないと分かりながらも、止む無く続けていましたが、43 才にしてようやく根本治療を受けるチャンスに巡り会えました。

薬は煎じ薬と漢方入浴剤、漢方外用剤、消毒剤、抗生物質の外用剤でした。

4. 脱ステロイドの成功

最も懸念していたステロイドの離脱によるリバウンドの激しい症状は治療開始時には起こらず、もちろん長期休職することはありませんでした。

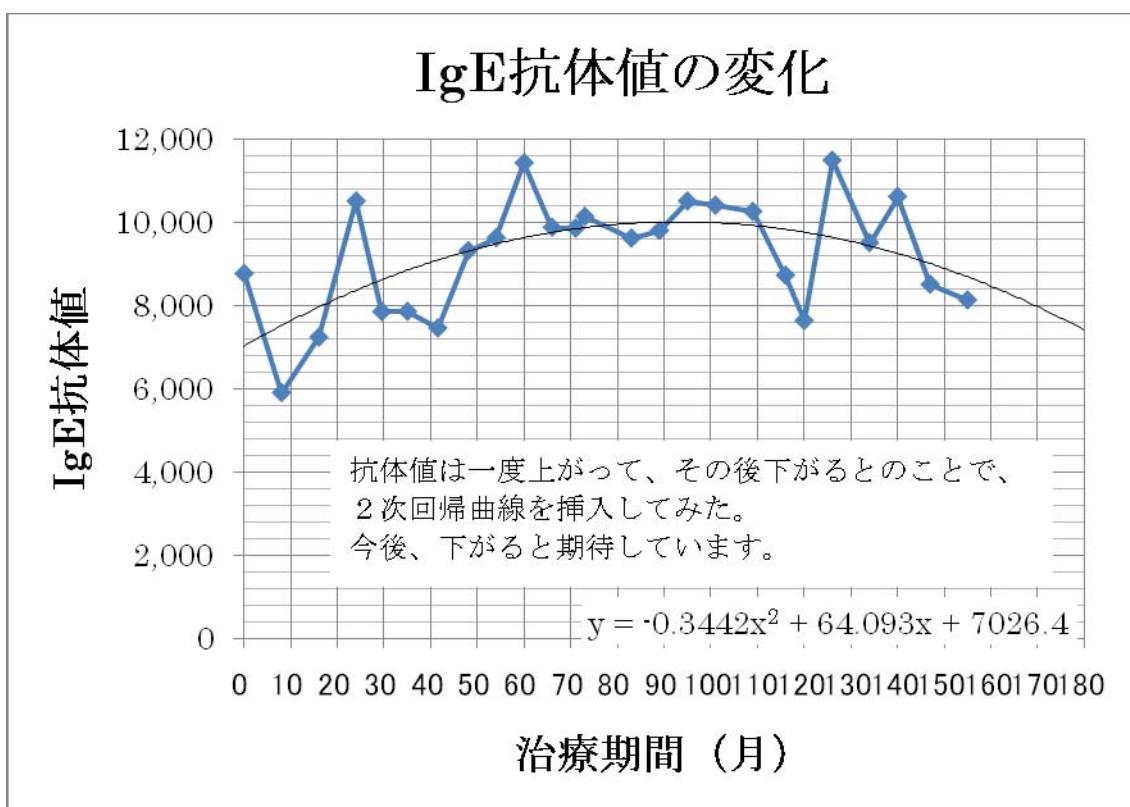
18 才時と 37 才時の脱ステロイドの試みでは、皮膚の症状は急激に悪化し、我慢の限界を超えて断念していたが、今回はリバウンド症状が起こらなかったか又は非常に緩やかな症状しかおこらずに脱ステロイドができたので、明らかに松本先生の漢方煎じ薬、漢方入浴剤、漢方外用剤と感染症対策の併用効果と言えます。

私はステロイドを長期使用したので、ステロイドの離脱が最大のハードルと考えていましたが、あっさり離脱できたことは奇跡のようで大成功でした。

5. IgE 抗体値の変化

治療開始日：2000 年 3 月 25 日 43 才初回血液検査の IgE 抗体値は 8760。
長年ステロイドを使用してきたので非常に高い数値です。

(添付グラフ参照) 抗体値は振れながらも徐々に高くなり、11,500 をピークに、10,000 付近で 7 年間高止まりし、ようやく下がりだし、治療開始後 13 年が経った今、8125 まで下がりました。まだ、途中経過の報告となります。治療開始後すぐに IgE 抗体値は下がったが、その後上がったままで、下降はなかなか起こりませんでした。原因は私の治療歴と考えられます。ステロイドの種類 (注射、内服剤、外用剤)、強さ、使用期間、使用量に依ります。なかでも、小学生の頃に打った免疫抑制の注射が最も悪影響したと思います。さらに長年のステロイド外用剤の使用と重症時のステロイド注射による、免疫のダメージが大きかったと考えます。



6. 治療初期の症状の変化

脱ステロイド後1年以内にリバウンドらしき強い炎症は有りませんでした。
 治療開始時：ステロイド外用剤で肌の外観は良好な状態からスタートしました。顔、首、脇、内股、ふくらはぎは特に痒いところ。脇、内股、ふくらはぎは搔くと、リンパ液が少量漏出していました。治療14日後：肌の状態は良好。右手中指からリンパ液少量漏出。顔、首、胸が痒い。

治療 21 日後：脇と肘はピリピリ痛く痒い。右手中指からリンパ液少量漏出

治療 5 か月後：足の甲と指、膝裏は搔くとリンパ液が漏出。

治療 7 か月後：手の甲にヘルペスの発疹が出るが、抗ウイルス剤服用で消滅。

治療 10 か月後：目が痒く、目ヤニが多量出たので、目の漢方薬に変更。

治療 16 か月後：全身の痒み増大で、アトピーの漢方薬に戻す。

足の指、甲、膝裏が痒い、搔くとリンパ液が漏出。

治療 17 か月後：右足の甲からリンパ液漏出。

治療 24 か月後：喉、膝裏、足の甲はリンパ液漏出。

治療 30 か月後：頭以外全身が痒いが、リンパ液の漏出はなし。

治療 60 か月後：IgE 抗体値は 11420(最高レベル)を記録。足の甲はリンパ液漏出。

7. ヘルペスウイルスとの戦い

治療開始 5 年半後から多量のリンパ液の漏出が繰り返されるようになりました。見かけの症状は悪化していますが、脱ステロイドで回復してきた免疫が皮膚細胞に潜んでいるヘルペスウイルスを見つけ出し攻撃し、表皮細胞が大量に崩壊したためとのことで、免疫が回復してきた兆候と考えられます。既に脱ステロイドには成功していますが、免疫力の回復が遅い原因は使用したステロイドの期間、量、種類の多さと思います。

時間がかかるが、さらに免疫力が回復し、この戦いに免疫が勝てば、ヘルペスウイルスは神経節に封じ込められ、今後アトピー性皮膚炎は収束に向かうと期待しています。

治療 5 年 6 か月後：突如として右臀部から多量のリンパ液が漏出し、

強い痛みを伴う。脱ステロイドから 66 か月後の初めての顕著な症状の変化。リバウンドかと思ったが、股のリンパ腺がピンポン玉位に大きく腫れ上がり、痛いので、免疫力がようやく回復し、ヘルペスウイルスとの戦いが激化したとのこと。痛みが強いので、単なるアトピー性皮膚炎とは異質の症状です。

治療 5 年 8 か月後：臀部～太ももにかけてさらに多量のリンパ液が漏出。

ヘルペスウイルスと免疫の戦いが最も激しくなった。

1 週間サイクルで悪化と良化を繰り返す。抗ウイルス剤の投与で劇的に良化した。

治療 6 年 2 か月：右臀部からリンパ液が漏出。

ヘルペスとの戦いが年に 2 回程度激しくなる。

治療 7 年 3 か月：右臀部～足の甲から大量のリンパ液が漏出。100cc/日位出る。

1 週間サイクルで悪化と良化を繰り返しているのが特徴。

漏出量と漏出患部の大きさはこれまでの最大。

治療 7 年 6 か月 : IgE 抗体値は 9790、初めてヘルペス単純 IgG 抗体値を測定するヘルペス単純 IgG 抗体値 128 (正常値は 2~16)、かなり高い数値膝裏、足の甲はリンパ液が漏出する。全身痒い。

治療 7 年 11 か月 : IgE 抗体値は 10,500、

ヘルペス単純 IgG 抗体値 218(最高値)を示す

臀部~足先において、ヘルペスウイルスとの戦いによる皮膚細胞の崩壊によるリンパ液の漏出は周期的に発生し、その時は抗ウイルス剤を処方してもらい、1~2週間で劇的に良化。

2010 年は最悪の皮膚の症状で、IgE 抗体値は再び最高レベルまで上がる。

治療 10 年 7 か月後 : 足の甲以外に喉、首からもリンパ液が出るようになる。痒みは強く、搔くと皮膚が崩壊し、ヒリヒリ痛く、首を回せないほど痛い。抗ウイルス剤 4 個/日飲む

治療 10 年 8 か月後 : 頭皮、おでこからもダラダラ漏出液が流れ落ちるようになる。これまでの最悪の症状。抗ウイルス剤 3 個/日飲む

治療 10 年 9 か月後 : IgE 抗体値は 11480 (再び最高レベルまで上がる)、

ヘルペス単純 IgG 抗体値 123

全身痒い。頭、額から漏出する。首回りは特に痒い。

抗ウイルス剤 3 個/日飲む

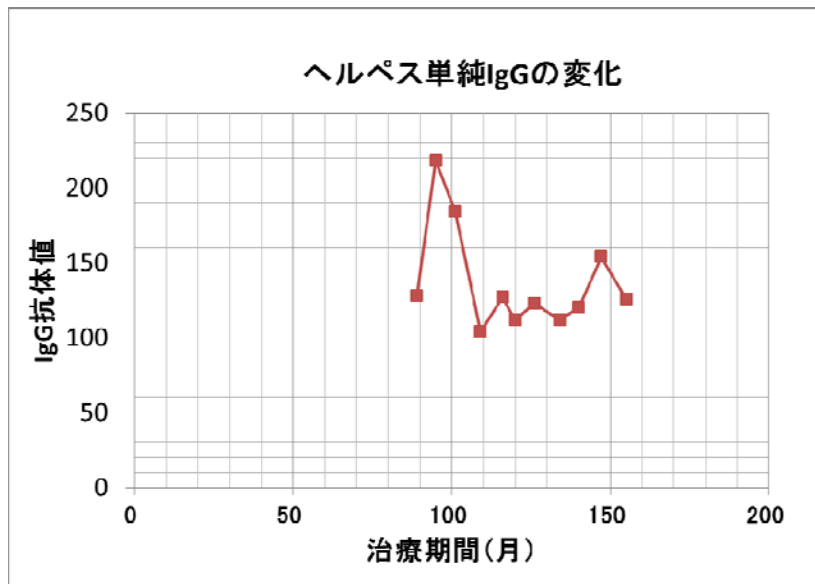
治療 11 年 10 か月後 : IgE 抗体値は 10610、ヘルペス単純 IgG 抗体値 110
足の甲と指は痛く、痒い。リンパ液の漏出あり、

治療 12 年 5 か月後 : IgE 抗体値は 8500、ヘルペス単純 IgG 抗体値 154
久しぶりに IgE 抗体値は 10000 を下回った。

左足の甲が、痛く痒い。リンパ液の漏出あり。

治療 13 年 0 か月後 : IgE 抗体値は 8125、ヘルペス単純 IgG 抗体値 126
まだ、IgG 抗体値は高止まりしています。

抗ウイルス剤は 2~3 錠/日飲み続けるが、足の甲のみ痛みと痒みが強く、リンパ液が出る。顔、首、肘、膝は痒みだけ。



8. 抗ウイルス剤について

現在も、このヘルペスウイルスと免疫との戦いが長引いており、足の甲からリンパ液の漏出、痛み、痒みが常態化し、常時抗ウイルス剤を2～4錠を飲んでおり、欠かせない薬となっています。

最近、抗ウイルス剤は保険の適用外（自由診療）になり、医療費が高騰（抗ウイルス剤だけでも1万円/月以上）しています。

保険適用のステロイドを処方された結果、免疫を抑制され、ヘルペスウイルスが増殖しました。しかし、ヘルペスウイルスの増殖を抑制する抗ウイルス剤の投与は保険がきかないのは理不尽です。

また、ヘルペスウイルスはごく一般的なウイルス。くちびるのまわりに水ぶくれができる口唇ヘルペスの場合、ウイルスに感染している日本人は20～30代で約半数、60代以上ではほとんどの人が感染しているというデータもあるほど。アトピー患者であろうがなかろうが、多くの方が使用される機会のある薬品なら保険適用されるべきと考えます。

医師会が認めてくれる流れになることを願っています。

9. 最後に

多くの方が脱ステロイドに成功され、健康になることを祈っております。

松本先生 ステロイドの離脱ができましたこと誠に感謝しております。

完治するまで、今後とも宜しくお願いします。

以上